

**製品名: GFAP (リン酸化 Ser38) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04730**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	50kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GFAP
別名	GFAP; Glial fibrillary acidic protein; GFAP
遺伝子 ID	2670.0
SwissProt ID	P14136
免疫原	抗血清は、Ser38 のリン酸化部位周辺のヒト GFAP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 11-60

**背景**

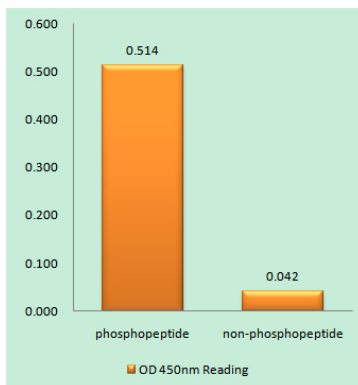
この遺伝子は、成熟アストロサイトの主要な中間径フィラメントタンパク質の 1つをコードしています。これは、発達過程において

アストロサイトを他のグリア細胞と区別するためのマーカーとして用いられます。この遺伝子の変異は、中枢神経系アストロサイトの稀な疾患であるアレキサンダー病を引き起こします。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008年10月], 代替産物: アイソフォームは、選択的エクソンによってコードされる C 末端領域で異なります。、疾患: GFAP の欠陥は、アレキサンダー病 (ALEXD) [MIM:203450] の原因です。アレキサンダー病は、中枢神経系の稀な疾患です。アストロサイトの細胞質封入体であるローゼンタール線維の広範な蓄積を特徴とする進行性白質脳症です。最も一般的な病型は乳児および幼児に発症し、進行性の中核髄鞘形成不全を特徴とし、通常は 10 歳以内に死に至る。アレキサンダー病の乳児は、大頭症、発作、精神運動発達遅滞を伴う白質脳症を発症する。若年型または成人型の患者は、典型的には運動失調、球徴候、痙縮を呈し、進行はより緩徐である。、機能: クラス III 中間径フィラメントである GFAP は、中枢神経系の発達過程においてアストロサイトを他のグリア細胞と区別する細胞特異的マーカーである。、オンライン情報: GFAP エントリ, 類似性: 中間径フィラメントファミリーに属する。、細胞内局在: 中間径フィラメントと関連する。、サブユニット: SYNM と相互作用する (類似性による)。アイソフォーム 3 は PSEN1 と相互作用する (N 末端を介して)。、組織特異性: フィブロネクチンを欠損する細胞で発現する。、

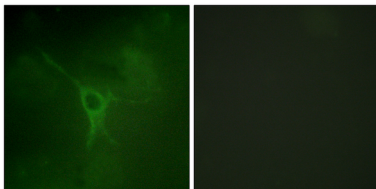
## 研究分野

神経科学

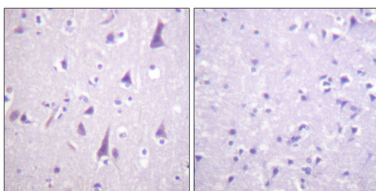
## 画像データ



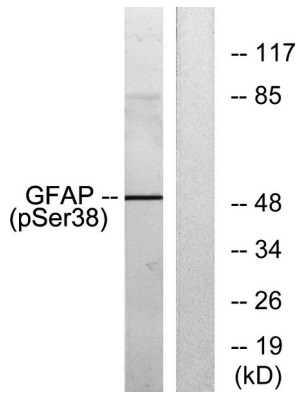
GFAP (リン酸化 Ser38) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



GFAP (リン酸化 Ser38) 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



GFAP (リン酸化 Ser38) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



GFAP (リン酸化 Ser38) 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。